

# 平成16年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ヒラメ

学名 *Paralichthys olivaceus*

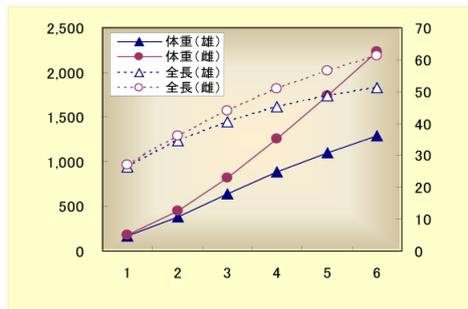
系群名 太平洋北部系群

担当水研 東北区水産研究所



## 生物学的特性

寿命: 雄10歳以上、雌20歳以上  
 成熟開始年齢: 雄2歳以上、雌3歳以上  
 産卵期・産卵場: 5~8月、沿岸各地の粗砂および砂礫(水深20~30m)  
 索餌期・索餌場: 沿岸各地の水深30m以深の陸棚  
 食性: 着底稚魚はアミ類、全長10cm以上は魚類やイカ類  
 捕食者: 着底直後の稚魚は大型魚や甲殻類

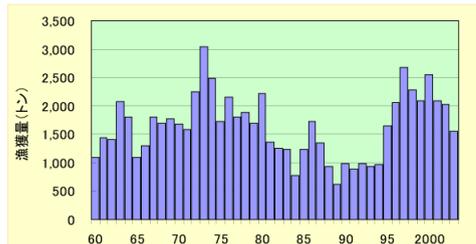


## 漁業の特徴

小型底びき網、刺し網、定置網、沖合底びき網等により周年漁獲されている。漁法により漁獲物の体長組成は異なるが、全般的に45cm以下(1+, 2+歳)が漁獲物の大半を占める。資源保護と管理を目的とした水揚げ物の全長制限(30cmまたは35cm以上)が、各県で実施されている。また、ヒラメは高級魚であり、各県において種苗放流が盛んに行われている(2002年5,573千尾)。

## 漁獲の動向

青森県太平洋側~茨城県における1988~1994年のヒラメの漁獲量は、1,000トン弱程度で推移していたが、1995年以降は増加傾向を示し、1997年には2,674トンに達した。その後、1998~2002年は2,000~2,600トンで推移していたが、2003年は1,500トン台(概算値)に落ち込んだ。



## 資源評価法

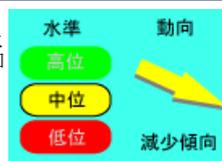
複数年にわたり採集した標本を用いて作成したage-length keyを用いて1990~2002年の福島県の漁獲物データより算出した雌雄別年齢別漁獲尾数からコホート解析を行い、資源量を推定した。

## 資源状態

1980年代後半~90年代前半において低水準であった資源量は、1994、95年に発生した卓越年級により急増した。94、95年級に由来する産卵親魚量が大きく、その後の加入量水準は比較的高く、2000年までの年級群豊度は高い水準を維持していた。2000年以降の加入量は、減少または低水準となり、2003年の資源量水準は1990年代後半と比べると大幅に減少している。

漁獲期間	1+歳		2+歳	
	雄	雌	雄	雌
2003年1~6月	44,569	58,919		
2003年7~9月	1,606	2,612	37,395	30,397
2003年10~12月	13,639	15,354	20,512	17,164

2003年に福島県で漁獲されたヒラメ1+歳と2+歳の漁獲尾数、漁獲尾数は6月と10月に作成した雌雄別age-length keyを用いて推定した。年齢は7月で1歳加齢するので、1~6月の1+歳と7~12月の2+歳は2001年級、7~12月の1+歳は2002年級である。2002年級が完全に加入した10月以降も、2001年級に比べて漁獲尾数が少ないことから、2002年級の加入量は低いと推察される。



## 管理方策

1960年以降の漁獲量の推移から、10年に1度程度の頻度で発生する卓越年級によって資源量が急増し、その後数年でそれ以前の水準に戻ることを繰り返していると推察される。卓越年級の発生確率を少しでも高くすること、卓越年級が発生しなくても漁獲量を長期にわたり中~高水準に保つために、産卵親魚量、または繁殖成功度が高いと思われる高齢魚の資源量を一定レベル以上に維持することが重要である。現在の資源量は減少傾向にあると推察されるので、5年後(2009年)の産卵親魚量(雌のみ)が2002年と同レベルであることを目標として、Flimitを設定した。また、漁獲物の全長制限は産卵親魚量の維持と資源の有効利用の観点から重要である。

	2005年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	1,190トン	0.82Fcurrent	0.67	47%
ABCTarget	1,140トン	0.8・0.82Fcurrent	0.53	45%

#### 資源評価のまとめ

- 近年の資源水準は中位、動向は減少傾向である
- 2000年以降の年級群豊度は中～低水準である

#### 管理方策のまとめ

- 産卵親魚量を維持するために、漁獲量を1,200トン程度にする
- 水揚げ物の全長制限を今後も維持する

資源評価は毎年更新されます。